



# クリスチャンパートナーズ

## 通信第 112 号

- 
- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| ・発行日／2024年5月31日             | ・発行所／クリスチャンパートナーズ   |
| ・本部／〒350-1126 川越市旭町 1-19-18 | ・電話 049-242-4338  |
| 日本基督教団 川越教会内                | ・ <a href="https://www.christian-partners.com/">https://www.christian-partners.com/</a> |
| 郵便振替口座／00150-0-134994       |   |
- 

### 「ただ主に仕えよ」

(マタイによる福音書 4 章 1 節～11 節)  
理事長 木ノ内一雄

しばらく前のある新聞に「ミャンマー・クーデターから 3 年・下」という記事がありました。そこで記者は一人の少女 (16 歳) に簡単な算数の問題を出しています。「5+5 は」「10」。「じゃあ 5 x 5 は?」「...15」。ビルマ語の文字もすべては読めないようです。その子は 7 年前、小学校 3 年の時、学校をやめました。家族のために働くしかなかったようです。この記事を読んだ方もおられるかもしれません。

ミャンマーに行った時、訪れた育児院 (親のいない子どもたちの養護施設) では子どもたちが学校に通い勉強していました。しかし、この女の子のように家族がいても経済的負担が子どもの肩にかかってきてしまう場合もあります。その子の僅かな収入でも家族にとっては助けになるのでしょう。このような経済状況は国軍によるクーデター後、ますます悪化しているようです。通貨が暴落し、反対勢力との戦いで経済は疲弊し、社会は病んでいます。アウンサン・スーチー氏の時代に戻ることはできないのでしょうか。

事情は違っても日々の食事に事欠いているのはガーナも同じです。度々襲う干ばつや洪水で慢性的な食糧不足は続いています。子どもたちに食べさせられないのが一番つらいようです。このような貧しい状況は主イエスの時代のパレスチナでも同様でした。主はご自身のところに集まって来た 5 千人 (成人男子だけの数) の人たちにパン五つと魚二匹で胃の腑を満たされました。彼らは主イエスを自分たちの王にしようとしていました。しかし、主はそこを去って行かれました。

主は公生涯に入る前、荒野で三つの誘惑 (試練) を受けました。最初の試練は、石をパンに代えたらどうだ、と言うものでした。しかし、主は「人はパンだけで生きるものではない」と言われました。

ミャンマーやガーナの子どもたちが貧しさの故に試練を受けているのではありません。わたしたちが試練を受けているのです。主イエスが石をパンに代え、この世の飢餓を救わなかったのは何か理由があるはずです。わたしたちに主が歩まれた御足の後に続くよう求めておられるからではないでしょうか。わたしたちの命はこの世だけのものではないからです。

## 西カリマンタン SAC 宣教活動

### 2023 年度・年次報告



主にある皆様のご支援により、SAC プログラムは今年度も活動を続けられました。問題はいろいろありながら、SAC プログラムは順調に進展し、支援金の配分も、子どもたちの間で、また教会間でとどこおりなく行われました。悪天候にもめげず、子どもたちは元気に活動し、学校出席はもちろんのこと、教会のプログラムにも熱心に参加しています。

皆様から頂く誕生日祝い金によって、子どもたちは必要なものを得られるので、大変喜んでいきます。

(註：現在、日本からの SAC 支援金で学校に通っている子どもは7名です。子どもたちは年2回里親と文通することになっており、そのインドネシア語は協力者の手で日本語に翻訳されます。)

今年も子どもたちの健康を守り、教育の機会を与えて育てられるように努力いたします。

何とぞ奉仕者の健康が守られますように、お祈りのうちにお覚え下さい。



西カリマンタン地区 奉仕者代表

## ミャンマー「恵みの家」 Grace Heaven 近況

「通信」第109号(2022年5月)でご紹介した、ミャンマーのダラ市にある施設から報告がありました。そのセンターには学校に通う SAC 対象の子どもが30人いて、養護施設 Grace Heaven からは6名が加わります。月～金の午後には学習を助けるプログラムがあります。日曜日に教会学校に出席できる子は多くありません。生活は困窮しているので、センターではしばしば支援品を家族に配っています。町の中はまだ安全とはいえず、宣教活動の拠点としての建物の確保が急務です。

## 高橋めぐみ先生、インドネシア・西カリマンタン訪問

主の御名を賛美します。皆様にはインドネシア・カリマンタンの子ども達を祈り支えていただき感謝いたします。

私は、昨年は8月と12月の2回インドネシアを訪問することができました。8月は群馬県の牧師と、関西聖書学院神学生2名と訪問しましたが、主な目的は西カリマンタン山岳地域の野菜プロジェクトの可能性を探るためでした。農業が進んでいるジャワ島も参考のために訪れましたが、行ってみて実感したのはカリマンタン島とジャワ島の「格差」でした。土地が肥沃なジャワ島の効率的で良く管理された農業と、赤っぽい土を野焼きするカリマンタン奥地のやり方とではあまりにも差がありました。とにかく「少しずつ、やれることから」、カリマンタンの地と人に根差した方法で、進めていく事が大切だと思われました。

それから12月末は異文化体験ツアーで、中学生1名、高校生3名、大学生1名、社会人2名と引率者3名と共にカリマンタン奥地の中高生寮を訪れました。参加者はそれぞれに忘れられない異文化経験をし、インドネシアが大好きになりました。若いうちに宣教地を訪れる事、異文化を体験することはやはりとても大事な事だと思われました。

とともうれしかったのは、グロリア中学生寮Ⅱの出身者のナセールがスルートウンバワン・クバックラヤ村の村長になっていた事でした。彼は2003年から2006年に中学生だった初期の寮生でした。「村の人々の声をよく聞いて、政府側との橋渡しになりたい」と話していましたが、誠実で頼もしいリーダーとなっていました。

寮の子どもたちが成長するにはずいぶん年月がかかりますが、地域に仕える存在となっているのを見ることは大変うれしいことでした。これからもグロリア寮1と2出身の若い世代が地域の祝福になっていって欲しいです。



高橋先生とナセール夫妻

## ドノ君、ムハマディヤ学院学士課程を修了

主イエス様の平和にあってご挨拶します。

今日まで私を導き、守ってくださった主イエス・キリスト様のいつくしみに感謝します。

私は内陸部スンクン出身で、この度、ムハマディヤ学院で学士課程を修了しました。私は近隣の村々を回る看護師になることを使命としています。そのためには公務員の資格が必要なので、2024年4月に公務員の登録に挑戦するつもりです。どうか兄弟姉妹の皆さん、神様の助けで合格出来るように、祈りでサポートしてください。

めぐみ先生はじめ、いつも私を支えてくださる皆様に感謝します。

神様の祝福が皆様の上に豊かにありますように。



# ガーナ 2022 年度活動報告

Bangmarigu Amos 牧師 (抄訳 理事 木ノ内和美)

2022 年度は皆様のご支援と祈りによって、多くの実を結ぶことができました。

\*伝道活動：10ヶ所で伝道会を開催し、263名の方々をキリストに導くことができました。

\*養護施設・学校運営：バングマリグ フューチャースターズアカデミー (BJSA) は、生徒数が 320 人から 410 人に増えました。キリスト教主義の学校で 23 名の子どもたちが信仰へと導かれています。養護施設は創立から 19 年間経ち、167 人の親のいない子どもたちを抱えております。皆様からの支援により、食糧、衣類、医薬品などを子どもたちに支給することができております。子どもたちへの教育・健康・衣食住の必要はまだ充分ではありません。支援者の協力を得て、将来の指導者養成が望まれます。



\*山羊育成プロジェクト：目覚ましい進展が見られました。

山羊を飼育することにより利益を得た村人たちは口々に神様を褒め称えています。今後の方針としては、初めから山羊を与えるのではなく、キリスト教に改心した人に山羊を与える様にしたいと思います。山羊の供与を受けた村人たちは、一様に PI Japan に対する感謝の言葉を述べております。

\*農業：BJSA では、種子改良・有機栽培などを学生たちに指導しております。私が日本でアジア学院に研修生として滞在していた時身につけた有機栽培で、今ではトマト、ピーマン、オクラ、メイズ等を栽培しています。また土地の一角で稲栽培も始めています。今後、自分たちの手で更に改善し、収穫量に結び付けたいと思います。



\*飲料水衛生プロジェクト：学校、市場、その他水を使うあらゆる場所での飲料水衛生プロジェクトを立ち上げ、衛生には力を注ぎ蚊やコレラ菌の感染を防いでおります。

\*災害：2022 年には幾度となく災害に見舞われました。学校の屋根が損傷した時は 10 万円の見舞金で屋根を補修でき、神様に感謝致しました。2022 年度を通して、神様の素晴らしい導きに感謝すると同時に、クリスチャン・パートナーズのご支援に、あらためて感謝し、今後とも福音伝道の業に、ご一緒に邁進していきたいと願っております。ガーナでの働き人たちと家族の健康が守られますようにお祈りください。ダイレクター始めスタッフ、学校の教師生徒たちがこの一年も守られますように、ガーナでの伝道の業のために、移動手段などの必要が満たされますように引き続きお祈りください。(木ノ内注) 昨年度は緊急支援とは別に 25 万円の支援をいたしました。(25 頭の山羊購入 8230、移動費用 1750、信徒訓練 2500、養護施設の子どもたちへの食糧 4000、スポーツ 1368 単位：ガーナ貨幣セディス)

~~~~~

【理事会報告】第 224 回理事会は 2024 年 1 月 29 日にウェブ会議で開催。2023 年度の会計報告と 2024 年度予算承認。SAC 及びインドネシアミッションへの援助は支援金の集まり具合により継続可能性を判断する。ホームページの活用がなされていない現状で今後の継続の仕方を考える。SAC の支援児童との連絡は年二回の文通により実行されている。マレーシア事務所を通して現地語は英訳されて送られてくる。

(編集後記) 戦争のニュースが方々から伝わって来ます。私たちが支援する人々の上に平穏の日々がありますように。 鳥海百合子